

第4回 β 本町橋・水辺の賑わい拠点づくり会議

日時：令和6年2月26日(月)18:00～19:30

場所：大阪産業創造館5F研修室A B

出席者：橋爪委員（座長） 栗本委員 谷川委員 玉川委員 澁谷委員 大江委員 伴委員

欠席者：加藤委員 能西委員 西口委員

○事務局

（大阪市経済戦略局）大野部長、和田課長、白濱担当係長、森内係員

（大阪市建設局）横尾課長代理、松原担当係長、柳澤担当係長、深谷係員

○事業者

大希産業株式会社、一般社団法人水辺ラボ、株式会社グロリア、有限会社リゾートバンク

（事業者事業説明後 各委員からのご意見、ご質問）

【栗本委員】

今年度はコロナが5類へ移った中、工夫を凝らしながら事業を展開しており大きな進捗が見られた1年だったと思う。その努力に敬意を表したい。

地域連携が事業の大きな柱になっているかと思う。活動へ参加される人数も増える中でリピーターも増えてきていると思うが、新規ユーザーの開拓について今後どのように考えているか。

イケフェス※に参画していると思うが、何名くらいの訪問があってどのような反応があったのか、またそれを受けて来年度の方向性があれば教えていただきたい。

水都大阪コンソーシアムで季節ごとに中之島や天満橋でのイベントを公募により実施されている。そこにβ本町橋として連携の可能性などあれば教えていただきたい。

※生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪

【水辺ラボ】

リピーターは確実に増えてきている。そのリピーターの方が知人を連れてイベントへ参加してくれるなど、地域のネットワークは着実に増えている。今後の方向性としては、万博に向けて外から来られる方の増加が想定される中、その方々をどう受け止めていくかが課題と思っており、今年度から夜営業を始めたレストランの活用やツアーの強化や滞在型のプログラムができないかなど、まさに議論を進めているところ。万博に向けてトライアルしていきたい。

【リゾートバンク】

水上活動については、地域の方に見つけていただいて子供を連れて水上体験など参加いただいている。

徐々に学校の授業での利用が増えてきておりそこは嬉しいところ。一度来ていただくと、毎年同じ時期に来られることが続いてきている。

【水辺ラボ】

イケフェスには昨年度から参加していて今年度で2回目となり、2日間で約150人来ていただいた。建築関係に興味のある方など普段とは異なる層の方がほとんどだった。今年度はイケフェスにあわせて橋のトークイベントを行った。建築に興味のある人は橋にも興味のある人が多く、建築と橋をテーマにしたβ本町橋らしい企画ができたので、来年度もぜひ継続して参加していきたい。

水都大阪コンソーシアムのイベントとの連携については、今年度実現したのものとして夏休みの子供向けのプログラムにおいてβ本町橋を活用していただき連携することができた。事業者より企画段階から声をかけていただけたのでうまくコラボすることができたと思う。企画が固まった後に相談に来られるとなかなかうまくコラボすることができないが、企画段階から相談いただけると連携しやすい。

また、今年度は東横堀水門が工事により閉鎖されていたが、来年度は水門が開いているので中之島周辺と水面でも繋がるため期待しているところ。

【谷川委員】

コロナは明けたが、まだまだ厳しい状況の中で非常によく頑張っていたいただいたと思う。

収益の事業にしても公益目的の事業にしても、知ってもらって来てもらうことがポイント。そのためにも新聞やテレビからの取材や広報活動にも取り組んでいると思うが、その効果はいかがでしたか。

【リゾートバンク】

メディアに取り上げてもらった効果は確実にあると思う。しかし、参加者に情報を知ったきっかけを聞いてみても、はっきり覚えていない方が多いのも事実。今後もメディアからの取材には積極的に協力していきたい。また、最近よくあるのが、参加者が自身のSNS等に投稿されたものが拡散して知られていることもあると思う。

【谷川委員】

メディアにアップされた後に参加者や問い合わせがどのように増えたかについて、その変動をカウントする手法は欲しいところ。常連さんばかりではなく、新規の参加者をどう増やしていくかが重要なので、働きかけの方法についても考えて欲しい。

【水辺ラボ】

定着と循環はともに非常に重要と認識しているところ。数値的にカウントできていない部分もあるので、そこは課題だと思っている。

【玉川委員】

P10に、旅行会社とも協力しながら観光客誘致を強化する、と書かれている。この周辺にもいくつかホテルがあると思うがその宿泊客との連携について何かお考えか。

P21に、クラウドファンディングを活用したファンづくりとあるが、具体的にクラウドファン

ディングを活用して何をしたいこうとしているのか教えていただきたい。

【水辺ラボ】

現在、教育観光を事業に取り入れた旅行会社から相談をいただくことが増えている。また周辺のホテルとの連携もぜひ強化していきたいと思っている。

【リゾートバンク】

ホテル連携に関してはチラシを置いてもらうなどしたが、なかなか集客には繋がっていないところ。引続き、周辺ホテルと連携を考えていきたい。

【水辺ラボ】

クラウドファンディングに関しては、普段からよく、どうすればβ本町橋を応援できるのか、とお話をいただくことがあるので、すぐには事業性に乗らないようなことをクラウドファンディングを活用することで実現していきたいと思っている。具体的には、今年度譲り受けたスワンボートを水辺の魅力作りや話題作りに活用していきたいところだが、本体の整備などにも費用がかかるため事業としては難しいと思っている。そこでクラウドファンディングの手法が活用できるのではないかと考えているところ。

【大江委員】

レンタルスペースについて、ウエディングでの利用など非常によかったと思う。現状での課題などあれば教えていただきたい。

また、2024年度は水の回廊とベイエリアを結ぶ社会実験も検討しているので、ぜひβ本町橋も協力いただければと思う。

【水辺ラボ】

ウエディングについては、川と繋がっている珍しさや使い方の自由度の高さが売りであり一定のニーズはあると思うので、来年度も強化していきたいと思っている。

レンタルスペースの課題については、公共空間と同じで使う人のマナーが大きく影響することが分かった。地域の拠点としての施設なので、トラブルが起きないように気を付けて運営しているところ。

2024年度のベイエリアを結ぶ社会実験については、β本町橋としてもぜひ協力できればと思う。

【澁谷委員】

β本町橋の前から、船に乗り降りできる場所があると思うがどのように利用されているのか。東横堀川でクルーズに乗りたいとの声を聴くことがあるが、どこから乗ればいいのか分からないために案内することができなかった。

【水辺ラボ】

β本町橋前には、ひとつは公共船着場があり窓口に申請すれば利用することができる。もうひとつβ本町橋が管理する浮棧橋もあり、そちらは連絡を頂ければ調整のうえ利用することが可能。

【伴委員】

11月から飲食の夜営業を始めたとのことだが、利用状況について教えて頂きたい。
また、β本町橋のインバウンドの利用割合について教えて頂きたい。

【水辺ラボ】

飲食の夜営業については、月に1,000人ほどの利用があった。これまでは口コミで来て頂いていたが、これからはHPでの来店予約も可能になるため利用者数も増えてくると想定している。
また、陸上でのインバウンドの利用はまだまだ少ない状況。

【リゾートバンク】

水上アクティビティでのインバウンドは思っていたほど伸びておらず1～2%程度。要因としては、数を多くこなせる体験ではないため、団体客の誘客には不向きなことが考えられる。今後、個人旅行客が増えると変わってくるかもしれない。また、インバウンド対応として外国語を話せるスタッフを入れるなど対応している。

【橋爪委員】

事業を継続していくうえで、収益事業をどう考えていくのかは今後大事になると思う。また、β本町橋は公民連携の拠点としてたくさんの交流がある。そこから何が生まれてどのような活動が広がっていくのか、たくさんの新しいアイデアや活動を展開していくなかで、そこから成功事例が生まれてくると良いと思う。

クラウドファンディングを実施する上ではストーリー性を持たせることが重要。例えばスワンボートであれば、β本町橋とのつながりや物語があると良いと思う。

【橋爪委員】

本日説明のあった活動報告及び次年度の方針について異論はなかったと思う。本日の意見を踏まえ創意工夫を続けて頂きながら次年度のβ本町橋の運営に取り組んでいただきたいと思います。

以上